

## 登壇者プロフィール



鈴木 達治郎 (RECNA センター長・教授)

1951 年生まれ。75 年東京大学工学部原子力工学科卒。78 年マサチューセッツ工科大学プログラム修士修了。工学博士 (東京大学)。2010 年 1 月より 2014 年 3 月まで内閣府原子力委員会委員長代理を務めた。核兵器と戦争の根絶を目指す科学者集団パグウォッシュ会議評議員として活動をしている。



広瀬 訓 (RECNA 副センター長・教授)

専門は国際法、国際機構論。国連開発計画(UNDP)プログラム担当者、ジュネーブ軍縮会議日本政府代表部専門調査員、宮崎公立大学教授等を経て現職。



中村 桂子 (RECNA 准教授)

2012 年 4 月の RECNA 開設にともない、長崎大学に赴任。2012 年 3 月までは特定非営利活動法人ピースデポ(横浜)の事務局長として、核軍縮・不拡散問題に取り組んでいた。



藤原 帰一 (東京大学政策ビジョン研究センター長・法学政治学研究科教授)

東京大学法学部卒業、同大学大学院博士課程単位取得満期退学。フルブライト奨学生としてイェール大学大学院に留学。東京大学社会科学研究所助手を務め、千葉大学法経学部助手、同助教授、東京大学社会科学研究所助教授を経て 1999 年から現職。フィリピン大学アジアセンター客員教授、ジョンズ・ホプキンス大学高等国際研究員客員教授、米国ウッドローウィルソン国際学術センター研究員等を歴任した。



太田 昌克 (共同通信編集委員・RECNA 客員教授)

1968 年生まれ。早稲田大学政治経済学部卒。政策研究大学院大学修了 (博士)。1992 年、共同通信社入社。外交・安保、核・原子力政策を中心に取材。ワシントン特派員時代の核問題報道でボーン・上田記念国際記者賞受賞。主著に『日米「核密約」の全貌』、『秘録-核スクープの裏側』、『日米〈核〉同盟』、『日本はなぜ核を手放せないのか』。



吉田 文彦 (RECNA 副センター長・教授)

1955 年京都府生まれ。東京大学文学部卒、朝日新聞社入社。2000 年より論説委員、論説副主幹。その後は、国際基督教大学 (ICU) 客員教授、米国のカーネギー国際平和財団客員研究員、笹川平和財団常務理事などを歴任。主な著書は、『核解体』『証言 核抑止の世紀』『核のアメリカ』。